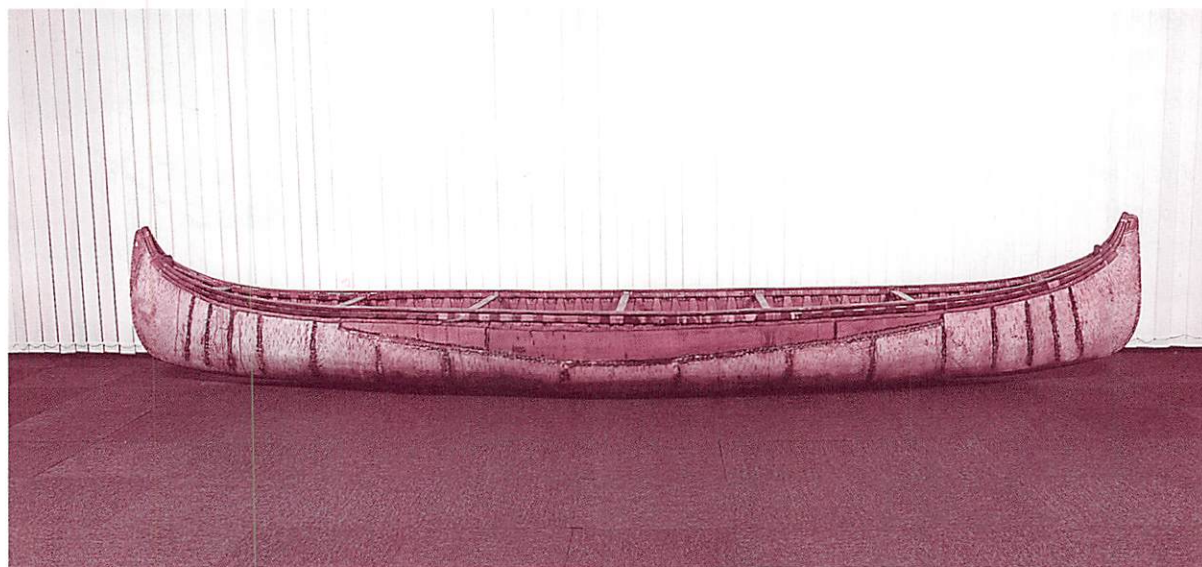




# 北方民族博物館だより

## No.58



### H5.26 白樺樹皮製船

民族名 アルゴンキンインディアン

地域 カナダ

1870年頃

この船は次のようにして作られる。6月から7月上旬に、真っすぐで傷のない白樺の樹皮が剥がされる。剥がした樹皮にお湯をかけるなどしながら、木枠にそって船の形に折り曲げてゆく（木枠はあとで外す）。

船の形になった樹皮の内側に、うすく剥いだスプルース（トウヒ）のできた肋材をいれ、スプルースの根で縫い合わせる。

防水のためには、乾いてひび割れることのないよう油分を混ぜた松脂まつやにが継ぎ目などに塗られている。

軽いため持ち運びもしやすく、主に河川や湖沼で使われた。

- 1 白樺樹皮製船
- 2 ロビー展 自然への畏敬 清水晶子植物画  
ロビー展 ミュージアムコレクション 北のお人形
- 3 北海道博物館紀行「上湧別町ふるさと館JRY」  
モンゴル調査
- 4 INFORMATION



## ロビー展

### 自然への畏敬 清水晶子植物画展

2005. 6. 17 - 7. 3

野山や庭にさまざまな花が咲き乱れるこの季節、北方民族博物館では森の家との共催により、植物画の展覧会を開催しました。

「植物画」(ボタニカル・アート Botanical Art)とは、貴重な薬草や珍しい植物の色や形を正確に伝えるために、植物学と芸術・美術が結びついて発展してきたものです。

本展示では、網走市在住の植物画家で、現在北海道植物画協会の会長を務めておられる清水晶子氏の作品によって、近郊の野山に自生する草や木、公園や家庭に植えられている花などを中心に、身近な植物の姿を紹介しました。

展示会には、網走市近郊だけでなく道内各地から多数の観覧者が訪れ、画用紙上に再現された植物の姿に見入っていました。なかには虫眼鏡を使い、植物画の緻密な描写に見入っている方もおられました。

また、6/18(土)の10:00から15:00まで、当館講堂にて関連事業「植物画ワークショップ」をおこないました。講師をお務めいただいたのは、清水晶子氏です。

初心者を対象とした植物画の体験教室ということで、参加者は最初に植物画の歴史や絵の具の性質などについての簡単な説明を受け、それから実技に入りました。



中央が清水晶子氏

この日はクローバーが素材に選ばれました。まず鉛筆で下絵を描き、その後水彩絵の具で色を付けてゆきます。

細かい作業に疲れ気味の方もいらっしゃいましたが、最終的にはそれぞれ個性的に仕上がり、参加者全員でお互いの作品を鑑賞しあいました。

(学芸課 中田 篤)

主催：北海道立北方民族博物館・森の家

後援：北海道新聞社、NHK北見放送局、  
網走市教育委員会

協力：北海道植物画協会、オホーツク植物画同好会、  
きたみ植物画同好会、しれとこ植物画同好会

## ロビー展

### ミュージアムコレクション 北のお人形

2005. 4. 28 - 5. 29

当館の資料のなかから人形を紹介する展示を行いました。一口に人形といっても素材や形、大きさはさまざま、地域ごとの特徴がでています。特に、人形が着ている服は、その地に暮らしている人びとと同じ素材や仕立てになっており、またどの地域でもしっかりと靴を履いているのは、寒い地だからでしょう。



ゴールデンウィーク中ということもあり、こどもにも親しめるよう人形自身が自己紹介する形の展示にしました。なお日本玩具博物館主任学芸員の尾崎織女氏に種々協力いただきました。(学芸課 笹倉いる美)

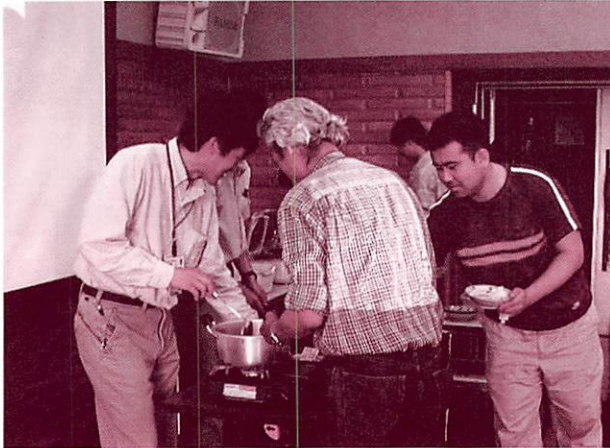
## 北海道博物館紀行

上湧別町ふるさと館JRY(ジェリー)

2005. 6. 11

講師 中島一之氏

(上湧別町ふるさと館JRY学芸員)



左端が中島一之氏

道内の特色ある博物館を紹介する「北海道博物館紀行」ですが、今回は「上湧別町ふるさと館JRY」の中島学芸員に講師をお務めいただき、館の活動や歴史を現代に活かす面白さについてお話しいただきました。

最初に、上湧別町の概要や同館の歩み、学芸員としての仕事内容などについての説明がありました。

次に、同館が扱う屯田兵(明治に北海道を開拓した兵士)や歴史などのテーマが現代の生活のなかでも活かせるという実例として、ご自身の体験を紹介していただきました。

まずダイエットをきっかけに、現代の食生活や日本の食文化の歴史などを調べてみると、屯田兵の食事が体に良い理想的なものであることがわかりました。

また、走るのが苦手という悩みから、かつて日本人が持っていた「ナンバ走り」という身体操作の技術を試してみたところ、走るのが楽になったのだそうです。

これらの実例から、講師は、「歴史」は知恵の宝庫であり、使い方によっては現代の課題にも十分対応できる、そして博物館の役割は、その使い方を示すことなのだという結論に達したのだそうです。

参加者には、実際に、米に麦やいなきび、粟を混ぜた雑穀ご飯など屯田兵の日常的な食事や、ナンバ走りなどを体験していただきました。こうした体験を通じ、同館のテーマである「歴史は実用！」を実感していただけたと思います。(学芸課 中田 篤)

## モンゴル調査

タイガ地域における春のトナカイ放牧に関する調査

2005. 4. 25 - 5. 14

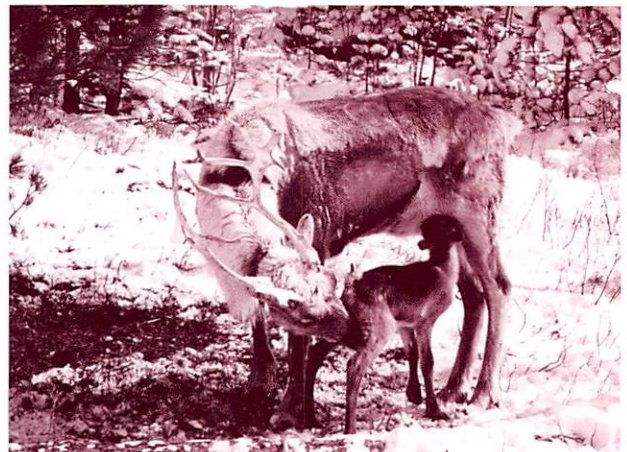
調査地：モンゴル国フブスグル県

ツァガンノール郡

ここ数年、モンゴル北部の山岳森林地帯でトナカイ飼育に従事しているツァータンと呼ばれる人びとの放牧技法についての調査をおこなってきました。彼らは季節ごとに放牧技法を変えますが、私はこれまで秋(9~10月)と冬(2月)に現地調査を実施しており、今回は春の放牧を観察することを目的としました。

春とはいえ、北緯51度、標高2000m以上に達する現地では、毎日のように雪が降りました。この時期、トナカイは午前中と午後一回ずつ放牧に出されています。また、毎日仔トナカイが誕生し、雌トナカイの搾乳も頻繁におこなわれていました。本調査については、今後別の形で詳細に報告します。

(学芸課 中田 篤)



母トナカイの乳を吸う仔トナカイ

### 2005年度北方民族博物館要覧



2005年度北方民族博物館要覧を発行しました。ご入り用の方は管理課までご連絡下さい。

## 第20回特別展

## アイヌと北の植物民族学 ～たべる・のむ・うむ～

2005. 7. 16[土] - 10. 10[月]

## 観覧料

一般 450(360)円／高・大生 150(120)円／小・中生 70(40)円

※( )内は10名以上の団体の場合

狩猟、漁労、牧畜一と、動物から日々の糧を得てきてきた北方の諸民族。しかし、植物もまた食糧をはじめ、薬、編み織物、染料、儀礼具など生活に欠かせないものとして利用されてきました。本展では、北海道のアイヌを中心にロシア、アラスカ、カナダなどの先住民の生活用具と食材などを展示し、植物の重要性を示します。また、主に植物の採集・加工を担い、現代までその知識と技術を受け継いできた女性の仕事についても紹介します。



## INFORMATION

## 寄贈資料

◆東京都の風間伸次郎氏からエベンの自動弓式わなほか計10点が寄贈されました。

◆札幌市の大島稔氏からコリヤークのバスケットサンプルほか計6点が寄贈されました。



初めての北方民族博物館(収蔵庫にて)

## 行事報告 4月～6月

◆北の文化・体験スクール「とんぼづくり」

4/15[金]、4/16[土]

◆「こども映写室」5/3[火] - 5/5[木]

◆博物館クラブ「土鈴づくり」形づくり5/7[土]、焼き入れ5/21[土]

◆北の文化・体験スクール「ウイルトのお人形『ホホー』づくり」5/14[土]

◆博物館クラブ「サミのひもおり」5/28[土]

◆国際博物館の日記念「初めての北方民族博物館・丸ごと体験」5/15[日]

◆北の文化・体験スクール「発掘体験」6/25[土]



発掘体験

## 行事案内 7月～9月

◆「展示解説会」7/16[土]

◆親子講習会「ウバユリからでんぷんを探ろう」7/23[土]

◆講演会「草木のいのちを食す」7/30[土]

◆北の文化・体験スクール「草木染め

体験」8/20[土]

◆「アットウシ織り実演とキナ織り体験」9/18[日]

※(財)アイヌ文化振興・研究推進機構「アイヌ文化活動アドバイザー派遣事業」

## 避難訓練 7月12日[火]

北方民族博物館だより  
No. 58

平成 17(2005)年 7月29日発行  
編集・発行 北海道立北方民族博物館  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
電話 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889  
e-mail : tonakai@hoppohm.org  
http://hoppohm.org